

清澄フィールドキャンプ 実施報告

2017年8月21日から26日にかけて、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学の先生方の御指導・御支援のもと、関東支部は清澄フィールドキャンプ（地質調査の演習）を共同実施した（参加者5名）。

参加者は、実施1ヶ月前から、地質学および地質図学演習の課題が与えられた。実施初日は、京大生が東京大学千葉演習林清澄宿舎に到着する前に、歩測や走向・傾斜の計測の練習をした。2日目以降は、京大生とともに、日中は七里川およびその支流で沢歩きをし、夜はルートマップとフィールドノートへの墨入れ・柱状図の作成を行った。参加者は完成するまで寝られない。コンビニの無い人里離れた場所で缶詰状態になって肉体的にも頭腦的にも追い込まれることなるが、参加者にとって貴重な体験となったと思う。最終日に、参加者には関東支部発行の修了証が渡された。

今年は天気に恵まれたが、ハチが非常に多く、1名がハチに刺され、途中リタイヤとなった。極めて残念であった。また、今年はタクシーを利用したが、問題点は、シューズを汚さないために着替えや履き替えの靴を持って行かねばならないこと（結局、荷物は京大の車中へ）、露頭を磨くためのデッキブラシなどの教育上大事な道具が持ち込めなかったこと、緊急時にタクシー呼ぶことに大変不便を感じたことである。

開催にあたり、京都大学の山路 敦先生、成瀬 元先生、佐藤活志先生、TAの羽地氏、石原氏から多大なるご支援を賜った。また、関東支部側の指導者として、石油資源開発株式会社の成沢紗也佳氏と古角晃洋氏、株式会社ダイヤコンサルタントの大中翔平氏、笠間友博関東支部幹事長にはお世話になった。東京大学千葉演習林の方々には、いろいろとご協力をいただいた。以上の方々に厚く御礼申し上げる。

（関東支部幹事 加藤 潔 駒澤大学）

参加者の感想

私は普段、大学では地形学を学んでいるので、地形と深く関わりのある地質について学びたいと思い、今回参加させていただきました。地質学会の指導陣の方々や京都大学の先生方に様々なことを教えていただきながらなんとか一週間を過ごすことが出来ました。

特に印象に残った体験は、一つ一つの露頭を時間をかけて細かく観察することで、次に露頭を違う場所で発見した時に、顔つきや粒径、それらを構成する重鉱物から前日に見つけた露頭と同じものが出ている、と分かった時の喜びはひとしおでした。さらに、ルートの途中で断層を発見し走向や傾斜をはかることによって地層がどのように切られているのかを推測できるということにもとても驚き、感動しました。

今回は一週間という短い時間で地質調査の基本的な事柄を教えていただきましたが、これで満足せずに今後も地質調査の面白さを忘れず、自主的に地質に関してさらに勉強し、今後の大学での研究などに活かしていければと考えています。

末筆ながら、今回お世話になった地質学会の皆様、京都大学のご指導いただきました先生方、学生の皆様本当に有難うございました。

(石橋真那美 専修大学3年)

私はこれから卒論を書く上でしっかりと地質調査の技術が必要になると考え、このフィールドキャンプに参加しました。京都大学の学部生の方達のプログラムに同行する形で参加しましたが基礎知識や道具の運用方法がしっかりと身に付いている方が多く、とても感心しました。

フィールドキャンプは6日間あり、ほぼ毎日作業を繰り返し行うと言った内容でした。毎日測定や記載といった作業をする内に、段々と要領がわかり最終日には6日間で行った作業をしっかりと自分のものにできたと思います。

この6日間で学んだことを忘れず、これからの研究に活かしていきたいとおもいます。

(栗本享宥 専修大学3年)

地質調査とはどのようなものを学ぶために、このキャンプに参加しました。初めは地質構造を理解できず、走向傾斜や岩相などを記載する単なる作業となっていました。しかし指導者の皆様にフィールドや夜業でひとつひとつ丁寧に教えていただき、三日目・四日目は地質構造を理解しながら調査することができました。また、初日は警戒していたヤマビルに日が経つにつれて恐怖心が薄れていくことに自分自身で驚きました。5泊6日の実習で体力・頭脳ともに疲弊しましたが、とても充実した日々を過ごすことができました。このキャンプで学んだことを生かし、今後の研究を進めていきたいと思います。

(専修大学4年 小塚朋子)

私は東京の公立中学校で理科の教諭をしています。好きな地学分野を教えるのに、このフィールドキャンプを通して新たな視点が得られると考えチャレンジしました。事前の宿題を通して基礎の確認と必要な知識を身に付け、また準備を進める中で地質調査に必要な装備や沢歩きに適した足回りを研究し、体をサポートするスポーツタイツの存在も知ることができました。初日には歩測やルートマップの描き方を学び、2日目の調査では、走向板を使い「層理面の三点を確保し、これを保持するため手を露

頭に密着させ測定する」など、手取り足取り具体的に教えて頂き大変勉強になりました。また、困っている様子を見て声をかけてくださるのも助かりました。地図の上でのコンパスを使った現在地の確認がとても大切なことや、岩相の見方・記載の仕方も教わりました。さらに調査中に遭遇する危険生物への対処の仕方も教わりました。作業は、何回も走向・傾斜を測り断層や鍵層となる凝灰岩層を記載していくことの積み重ねでしたが、これが地域全体の断層配列や褶曲、さらには地史の大きな理解に繋がることが分かり、スケールの大きさを感じました。初めのうちは皆さんに何とか付いて行けたのですが、毎日の調査と夜遅くまでの墨入れや柱状図描きの末、調査4日目には疲労がピークに達しました。しかし、教えて下さった諸先生方や行く先々で露頭を磨いて下さったTAの方々は、さらに“しんどい”のだと感じました。我々生徒を導き育てるために、大変な無理をしておられることに、そしてフィールドに分け入りコツコツ調査研究をされていることに、尊敬の気持ちで一杯になりました。この一週間、一つ一つ具体的な体験を積み重ね、また様々な指導を受けることができ、とても充実し貴重なものとなりました。本当に有り難うございました。

(東京都東村山市立東村山第二中学校教諭 吉村成公)